

# 1. 評価報告概要表

作成日平成 21年 3月 24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1092600012
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	草津温泉湯治館そよ風
所在地	吾妻郡草津町草津464番地702号 (電話) 0279-80-4141

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年2月27日

## 【情報提供票より】(平成21年 2月 10日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0人	常勤換算6人

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨構造造り		
	3 階建ての	2 階 ~	2 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	80,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 15,000円・温泉使用料 100円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000円	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は、1日 1,200円			

### (4)利用者の概要( 2月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.3 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	草津こまくさ病院
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、夏場は木々の木漏れ日、冬場には辺り一面が雪化粧で美しい自然環境の中、温泉や商店街を眼下に臨むペンションやホテル等の施設に隣接する緩丘地に立地している。県内外で運営を行っている母体組織の長所を踏襲しつつ、県内のグループホームや自治体の関係機関等と質の高い認知症ケアのあり方を協働で模索している。比較的新しいホームではあるが、入居者本位の生活やQOLの向上を目指した対応の仕方をはじめ、有効かつ効率的な物品の配置、使用方法、詳細かつ実用的な書式のあり方等を職員全員で日夜探ってきたため、きめの細かいケアが展開されている。建物の構造や自然環境によるケアの限界に屈することなく、運営者から一職員までが一丸となり、地域の関係機関や住民と手を取り、知恵を出し合い、課題や問題に真剣に取り組み確実に前進、発展しているホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</b> 同業者との交流においては、地域密着型サービス連絡協議会の研修会への参加や他グループホームの見学をしたり、ホームを管轄する公的機関と情報交換をしている。災害対策における地域との連携では、近隣の民家2軒に災害時の協力を依頼し、協力体制を整備している。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 日々、職員からケアサービスや運営に関する考えや気づきを聴取し、自己評価に当たった意見の聴取と併せて取りまとめを行っている。ホームの地域密着型サービスの理念を踏襲した、職員のケア体制の徹底、書式や記録の仕方の見直し、近隣住民や関係機関との連携のあり方等を職員全体で討議している。
重点項目②	<b>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</b> 会議メンバーに入居者の生活やホームの運営等をより詳細に知ってもらえるよう、今年度から2ヶ月に1回の定例会議をホームの行事がある日に合わせて開催している。ホームのケアサービスや運営状況をはじめ、外部評価の結果とその後の取り組みの様子、町の文化祭への入居者および家族の出品等の報告、討議を行っている。ホーム側からの報告や議題の提供が中心であり、会議メンバーからの建設的な意見や提案等が望まれる。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</b> 面会や電話連絡、提案箱等を通じて家族の要望や意見の収集に努めている。把握した情報は、冬場の外出困難な状況を打開する出張販売や宅配サービスの実施、入居者の趣味や特技を活かした家事やレクリエーション活動、特定の心配事の家族への報告等に反映している。
重点項目④	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 行事や日常の些細な機会を活用し、近隣の地域住民をはじめ、保育園や中学校、役場や保健センター、商工会、ボランティア等の人や機関と良好な関係づくりに努めている。また、入居者の作品を町の文化祭に出展したり、認知症サポーターの相談窓口になったりと公的な地域行事の一翼を積極的に担っている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成19年4月から経営母体が変わり、母体組織の理念とは別にホーム独自の地域密着型サービスとしての理念について全職員で話し合いをし、今までの理念を継続をしていくことにしている。	○	地域との関係性や地域生活の継続の内容が盛り込まれた地域密着型サービスとしての理念の見直しを検討し、入居者及び職員にもわかるような工夫を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は朝礼で理念を唱和し、会議においても理念に添った介護について話し合っている。入居者の意思を尊重し、買い物や家族に会いに出かける等の支援をして、入居者の気持ちに添った介護を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の文化祭への入居者の作品出展をはじめ、商工会祭に出かけたり、他ホームの行事に招待され参加している。また、中学生の体験学習や地域の幼稚園、保育園の園児の訪問を受け入れて歌やダンスを見たり、歌ボランティアの方と一緒に歌う等して人々との交流を楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、自己評価は職員の意見を聞き管理者がまとめている。評価結果は職員に周知するように伝え、会議で話し合い改善に取り組んでいる。また、評価結果とは別に、その都度の会議の中で振り返りをし、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、行政、町会議員、保健センター長、民生委員、家族代表等の出席があり、サービスや行事、運営状況を報告している。入居者の生活を理解して貰えるようにイベント日に会議を設定したり、家族の方の参加が多くなるような議題を考え、有意義な会議となるよう工夫し、会議での意見はサービスに活かしている。	○	今後更に会議メンバーから広く意見収集ができるよう、またホームが発展するような意見やアイデアが出せるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の通知書類を町の担当者に直接渡し、サービスの相談をしている。職員は、町の認知症やセンター方式等の研修に参加したり、認知症サポーターの相談窓口になる等の活動をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「そよ風新聞」に、入居者の暮らしぶりや行事等を掲載し、一人ひとりの健康状態や暮らしぶりを個々に手紙に記載し、金銭の出納表と利用料の請求書と共に郵送している。急な変化等は電話で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口について重要事項説明書に明記し、入居時に説明している。要望や意見等の提案箱も設置している。ホームへ来所した家族に言葉かけをし、家族から出された冬場の外出や買い物等の意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力少なくしているが、スキルアップのため草津のそよ風内(デイサービス、ショートステイ、グループホーム)で行なわれ、入居者には別の階に異動する旨を説明をしている。異動後も昼間は同じ建物内で行き来することもあり、入居者と顔を合わす機会がある。職員の離職についても、特別の事情が内限り、入居者本人に伝えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県主催の認知症介護研修、母体組織で行なう新人教育研修、レクリエーション講座等に段階に応じて職員は受講し、報告書を作成している。草津のそよ風内では、認知症や介護技術、感染症等の勉強会を毎月行ない、時折、沢渡病院から講師を招きリハビリテーションについて講演会を開催している。センター長や管理者の指導により、職員は働きながらトレーニングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の研修会に参加し同業者と交流を図ったり、中之条保健福祉事務所にホームの問題やケアプランの取り組み方等を相談している。また、他グループホームの見学をしたり、母体組織が運営する県内にある他ホーム3事業所のブロック会議に参加し、汚物処理セット等の勉強会や活動報告を通じて、サービスの質向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	希望に応じて職員は自宅を訪問したり、本人や家族にホームへ遊びに来てもらい、ショートステイの方や他の入居者との交流を通じてホームの雰囲気を体感してもらっている。時には、1週間程度の時間を要して、本人が納得した上でホームに入居をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昼食を一緒に作り、入居者に郷土料理の先生をしてもらっている。また戦争体験の話をしてもらったり、編物や手芸等を一緒にしている。新人の職員は、入居者に「慣れていないからね」等と慰められることがあり、共に学び支え合う関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の入居者との会話をはじめ、普段と違う入居者の表情や行動から信頼関係のある職員が声かけを行い、希望や意向を把握している。希望や意向を表出できない、または把握することが困難な入居者の場合は、その日の夕方の会議等で検討をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の要望や意見を聞き、月に2~3回行なわれるカンファレンスで、一人ひとりの入居者主体の生活について話し合い、3~6ヶ月の介護目標期間として介護計画を作成している。また、入居者の状態や心情を汲み取り、入居者のQOLを向上させる取り組みがわかりやすいよう、法人組織で度重なる書式の検討を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には毎月、緊急時はその都度というように、定期的かつ必要に応じたモニタリング、カンファレンスが行なわれている。職員はその時々気づきをその日の夕方の会議で話し合い、心身の状態の変化や本人及び家族の要望に応じて、実情に即した計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	町外の専門医の受診は、実費サービスであるハートフルサービス(職員が車で受診支援)にて対応している。隣接の協力医療機関に入院した入居者へ毎日職員が見舞い、心身の状態の変化を申し送りノートに記録して、その情報を共有し家族に報告している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の多くは、希望で隣接の協力医療機関(草津こまくさ病院)の医師がかかりつけ医となっているが、入居前からのかかりつけ医に継続受診している入居者もいる。職員は、受診に同行し、入居者の心身の状況や処方された薬等を家族に報告している。昼の時間帯は、デイサービスの看護師に血圧値の変化、有熱、小傷の処置等を相談している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際に、ホームで対応し得る最大のケアについて、入居者および家族に説明をしている。入居者の体調の変化時は、家族やかかりつけ医とその都度話し合い、全員で方針を共有している。また、ターミナルケアについては家族の要望があれば、相談に応じられるようにしていくよう検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねないように、入浴時の同性での対応や排泄時は「部屋に行きましょう」と小さな声で伝える等の工夫をしている。個人情報の記録等は、事務室の施錠出来る引き出しに保管し、家族等から開示請求があった場合のみ提示している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、入居者はホーム裏の畑に行くことをはじめ、居間で談笑したり、居室でテレビを観たりと一人ひとりの体調やペースに応じて、希望に添った日常生活を送っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者は、食事の準備や食器洗い、テーブル拭き等の後片付けを職員と一緒にやり、同じテーブルを囲み会話をしながら食事をしている。昼食は、入居者の希望を献立に取り入れ、一品ずつでも一人ひとりの好みに応じたメニューを提供できるように努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	温泉と普通の風呂が別々にあり、殆どの入居者は温泉風呂を好んでいる。希望を聞いて、毎日、二日置き等、日曜日を除いて午後の時間に入浴を支援している。入浴を拒否する入居者には、声かけの工夫をしたり、足浴等で対応している。また、季節の菖蒲湯や柚子湯で楽しめるよう支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の食器洗いや食器拭き、洗濯物たたみ、居室の掃除、草花の水遣り、畑の草むしりや収穫等、入居者の経験を活かし、持てる力を発揮してもらっている。また、入居者合同で貼り絵の紙芝居制作をし、町の文化祭に出展している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬は降雪の為に足元が悪く外出の機会は少ないが、暖かくなると外気浴や近隣を散歩したり、スーパーやコンビニで買い物をしている。また、ホーム敷地内の畑で大根やピーマン等の野菜作りを職員と一緒にしている。また、家族に働きかけて来訪の折に食事や外出を一緒にする機会を作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員が、鍵をかけることの弊害を理解し、玄関、居室は施錠していない。ホームは、建物の2階部分であるが、入居者はホールからベランダには自由に入出入りしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で年2回の避難訓練の実施やマニュアル作成をしている。入居者と職員合同で避難経路、避難場所の確認、消火器の使い方を訓練し、防災管理者は定期的に消火器の点検、使い方の指導を行なっている。近隣2軒に、災害時の協力依頼をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託の管理栄養士が、入居者の食事の希望を聞き、献立を作成している。食事量や水分摂取量はチェックして、介護記録に記載されている。昼食と月に1日は3食を職員と入居者が一緒に作っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階の玄関とホーム2階エレベーター脇には長椅子が置かれ、腰かけて履物が履けるようになっている。食堂を兼ねたダイルームにはテーブルがあり、端にはソファが置かれ、テレビ観賞や団欒の場になっている。キッチンとダイルームの仕切りは無く、調理台、レンジ、冷蔵庫、食器棚等が綺麗に整理されている。雛人形や花があり、季節感を採り入れる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、家族の写真、カレンダー、時計、テレビ、化粧品、本人の塗り絵や作品、人形等入居者の思い入れのあるものや使い慣れたものが持ち込まれている。亡くなった夫の写真に毎日お茶や水を上げられるスペースを確保したり、赤ちゃんの人形やぬいぐるみで部屋一面を明るく装飾する等居室毎にその人らしい生活を送っている。		